



7月園だより

2022年7月
尚徳福祉会
沼袋西保育園
園長

園のプランターの夏野菜が実をつけ始めました。子ども達は日々観察しながら生長を確認し、給食さんに「おきゅうしょくにいれてください!」と喜んで運んでいます。お家では食べない野菜も自分達で育て、お友だちと一緒に食べる野菜は格別なのでしょうね。

7月は、七夕・水あそび・プールあそびなど「夏」をイメージするイベントが盛りだくさんです。しかし、気温も湿度も上がる夏、体調を崩しやすい季節でもあります。人は朝日とともに目覚め、日中活動し、夜は脳と体を休める、という「リズム」の中で生活しています。規則的な生活を続けることで、体温やホルモン分泌などは一日の中である程度決まったリズムをもつようになり、健康でいきいきと生活している人は、このリズムがきちんと整っているそうです。リズムを作るためにも、夜しっかり「眠ること」はとても大切で、特に成長過程にある子ども達にとっては心身を休息させるだけでなく、体を作り、さらに脳を発達させるという効果も期待できるとのこと。健康な身体で、暑い夏を楽しく乗り切りたいですね。



☆7月の予定☆

- 1日(金) 避難訓練
- 5日(火) 幼児身体計測
- 6日(水) 乳児身体計測
- 7日(木) 七夕
- 14日(木) 0歳児健診
- 22日(金) 夏まつり
- 28日(木) 0歳児健診

※11日・25日の各月曜日、英語であそぼう
(幼児組)

☆8月の主な予定☆

- 2日(火) 避難訓練
- 3日(水) 幼児身体計測
- 4日(木) 乳児身体計測
- 10日(水) 0歳児健診
- 25日(木) 0歳児健診
- 26日(金) スパ・サイエンス・ツア-
- 31日(水) 公園練習日

※22日の月曜日、英語であそぼう(幼児組)

☆お知らせ・お願い☆

- 感染拡大防止の観点から引き続き、玄関先でのアルコール消毒(大人)と、登園後すぐのお子さまの手洗いをお願いいたします。
- 引き続き、大人は登降園時にマスクの着用をお願いいたします。
- 7/22(金)は夏のお楽しみとして「あつまれ沼西の森」を開催します。乳児さんは各クラスで楽しみ、幼児さんは動物になりきって、沼西の森を探検したりゲームを楽しみます。SDGsを踏まえたツアーも予定しています。
- 7/8・13、9時~12時で実習生2~3名が入ります。ご理解の程、宜しくお願いいたします。
- 7/26(火)よりプール遊びを行います。4・5歳を対象に8/5(金)までの期間で行います。半数ずつ行うため、一日一クラスとします。暑さ指数の基準と監視体制が満たされない場合は水遊びといたします。詳しい日程、準備等に関しましては各クラスの掲示をご覧ください。
- 年間を通して保育参観・保育参加を受け付けております。お子さんの園での様子を離れたところから見ていただいたり、一日先生になったり、是非、担任までお声かけください。
- 延長・土曜日保育を利用されている方、利用の予定のある方は、区へ提出前に就労証明書のコピーの提出をお願いいたします。

子どもには「生まれつきのタイプ」がある



「手がかかる子」もいれば「手がかからない子」もいる

赤ちゃんには、生まれつきのタイプがあります。神経質でデリケートな子ども(手のかかる子ども)、ずぶとい子ども(手がかからない子ども)、そしてその中間の子どもがいます。デリケートな子どもはだっこの姿勢がいつもと違くと泣きだしたり、トイレの水音でも電話の音でも起きて泣きだしますが、ずぶといタイプの子はどんな姿勢でも寝るし、めったなことでは起きなかつたりします。

日本の調査では、「手がかかる子ども」は34%。遺伝でもなく、育て方が悪いわけでもなく、一定の割合で生まれてくるようです。夜泣きもはげしくて親はたいへんなので、虐待されてしまう子どものほとんどは、この「手がかかる子ども」といわれています。「手がかかる子ども」なら「しょうがない」とあきらめて、「あんなものが気になっちゃうんだ」というように子どもに寄り添っていくしかありません。うちの3番目の子どもがこのタイプでしたが、そうやって苦労させられた分、かわいいと感じることも多く、思い出もいっぱいできたような気がします。

赤ちゃんに「わがママ」はない



あるのは自己主張

「自分かってなことをしている」と自分でわかりながらやるのが「わがママ」です。ですから、1歳や2歳の子どものわがママはなく、あるのは自己主張です。

ある若いお母さんがミルクを飲ませるのを見かけたときのこと。赤ちゃんは「もっと」というふうなのに、お母さんが「ここでがまんするのを練習させないと。ほしいと言ったときに全部飲ませていたら、わがママな子になるじゃないですか」と言うのを聞いて驚いたことがあります。

「子どものわがママは許してはいけない」という気負いと、「わがママな子と一日じゅうつきあうのはつらい」という育児負担が重なって、こう考えてしまったのでしょう。

でも、2歳くらいまでの子どもには、わがママなんてありません。「わがママな子」に見えても、それは「自己主張が強い子ども」というだけです。否定的に思ってしまうのは、0~2歳の子どもの発達の特徴を無視して、大人の理論を赤ちゃんにあてはめているのです。

主婦の友社 「0~3歳 能力を育てる好奇心を引き出す」
東京大学名誉教授 汐見 稔幸